

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス いまここstep			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ~ 2025年12月19日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年10月17日 ~ 2025年12月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月13日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	レク会議を月1回実施し、ねらいや5領域を考慮しながら活動内容を検討している。また、児童からの声を大切にし、「やりたい」「行きたい」といった希望を反映した活動を積極的に取り入れている。さらに、送迎時や面談時に保護者から伺ったニーズにも対応し、活動が固定化しないよう工夫している。	今後も同様に、児童一人ひとりの声を大切にし、成長につながる活動の選択肢を広げていく姿勢を継続する。また、季節行事や外出活動など、これまでも行ってきた多様な体験を引き続き提供し、活動が固定化しないよう工夫し続ける。さらに、保護者からいただいた意見もこれまで同様に丁寧に受け止め、家庭と連携したより良い活動づくりに努めていく。
2	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	Instagramのストーリー機能を活用し、活動の様子をタイムリーに配信している。また、リール動画を用いて、写真では伝わりにくい雰囲気や児童の様子を発信している。連絡事項についても、送迎時だけでなく公式LINEや連絡帳アプリを用いて共有している。	今後も、個人情報に十分留意しながらSNSを継続的に活用し、情報発信に努めていく。
3	26,27 こどもは通所を楽しみにしていますか 事業所の支援に満足していますか	活動を着実する際には、保護者のニーズや児童の希望を丁寧に聞き取り、可能な限り活動内容に反映している。また、児童が「行ってみたい」と思えるよう、活動チラシの作成や、ひらがなとイラストを用いた行事予定を掲示板に掲載するなど、見やすく親しみやすい工夫を行っている。	児童が理解しやすい言葉やイラストを用いて、「この活動には〇〇という目的やねらいがある」ということを事前に伝えるようにする。また、学びの時間がより楽しくなるよう、活動の導入や企画内容を工夫し、意欲を引き出す取り組みを強化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	12 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	家族支援については、送迎時の助言や日常的な相談対応、SNSを活用した情報発信等を継続して行っているが、個別対応や任意視聴の形が中心となっているため、支援の実施状況がすべての保護者に十分に認識されていないことが要因の一つと考えられる。	現在行っている送迎時の助言やSNSでの情報提供について、家族支援として位置づけていることがより伝わるよう、発信方法や周知の仕方を工夫していく。新たな取組を増やすではなく、既存の情報発信において内容や目的を簡潔に示すなど、保護者が必要な情報に気付きやすい形での周知を行い、無理のない範囲で家族支援の理解促進を図っていく。
2	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	放課後児童クラブや児童館等、地域の他児童との交流については、すべての児童に一律に必要なものではないと考えている。特に春学期以降の児童の中には、周囲に知られたくない感じる場合もあり、無理な交流が心理的負担となる可能性があるため、地域交流については慎重に判断している。一方で、社会性やコミュニケーションの機会が不要であるとは考えておらず、本人が安心して参加できる環境の中で、段階的に経験を積むことを大切にしている。	地域の他児童との交流を無理に進めるのではなく、同一法人内の他の放課後等デイサービスとの交流機会を活用し、顔なじみの職員や環境の中で安心してコミュニケーションを経験できる場を継続的に設けていく。今後も、児童一人ひとりの気持ちや特性を尊重しながら、安心感を基盤とした交流の在り方を検討し、社会性や対人関係の幅を広げる支援につなげていく。
3	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	保護者会については、これまで保護者からのニーズが少なかったことから開催には至っていない。今年度は「カレー屋さん」として保護者参観および交流の場を設けたものの、初めての取り組みであったため運営が手探りとなり、結果として保護者同士の関わりを促すための支援や働きかけが十分に行えなかつたことが要因である。	年に1回程度の参観の機会を設け、無理のない形で保護者同士が顔を合わせる場を継続していく予定している。また、参観時には職員が必要に応じて関わりを持つことで、保護者間の交流が自然に生まれるよう配慮していく。